

## 第63回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年10月18日（水） 10：00－11：20

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

河内内閣府事務次官

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官

(3) 関係省庁

経済産業省 上田大臣官房審議官

文部科学省 谷宇宙開発利用課長

文部科学省 庄崎宇宙利用推進室長

4. 議事要旨

(1) 平成30年度概算要求における宇宙関係予算について

宇宙開発戦略推進事務局、関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局及び関係府省からの回答)

- 国際宇宙探査は、日米協力を中心に進めるべき。特に、ISSは、既存の5極体制に加え、今後より多くの国々が積極的な関与を目指していると思う。その中で、日本は、「アジアとしてのハブ」というメッセージを出していくことが必要。
- 宇宙探査について、4つの重要技術（深宇宙補給技術、有人宇宙滞在技術、重力天体離着陸技術、重力天体探査技術）が挙げられているが、戦略的な観点から、本当に使われる技術を取捨選択していく必要があるのではないか。
- ISS関連予算は、深宇宙の宇宙探査だけでなく、例えば、微小重力環境などの低軌道空間の利用という観点からも重要。ISS継続についての検討だけでなく、低軌道の宇宙環境利用についても幅広く検討していくべきではないか。
- 宇宙資源探査の分野で、民間活力の活用とインフラ構築は大変重要。しかし、将来日本としてのインフラを取りに行くかについてはもっと戦略的な議論が必要。

(2) 工程表改訂に関する各部会の検討状況について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 宇宙分野における安全保障は、具体的な検討時期に来ていると思う。特に、仮想敵国への抑止力にもつながる宇宙空間における情報収集については、日本としてしっかり対応していくことが必

要。今後、こうした内容を中期防衛計画にも反映していくことが重要。

- 準天頂衛星は、利用を拡大するためには、地上側の装置を安価で小型にしていくことが必要。
- モデル実証事業は、地方公共団体などユーザーサイドから本当に良いアイデアが出てきている。引き続き、地に足の着いた形で進めていくことが必要。また、他の技術についても、更に一步先の新技術を検討する段階にそろそろ来ているのではないか。例えば、観測衛星については、先進光学衛星・先進レーダー衛星の先の新技術を検討する段階に来ていると思う。
- 産業・科学技術予算のうち、特にH3ロケットの予算は山場を迎える。確実に予算を確保していくことが必要。

(3) 宇宙ビジネスを支える環境整備に関する論点整理について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 既に国内外で様々な動きが出てきており、タスクフォース立ち上げは、タイムリーかつ適切であり必要なことと思う。
- 他国の先進的な動向も踏まえつつ、日本が国際的な枠組みを主導していくということが重要。

(4) 宇宙活動法に基づく技術基準（案）について

宇宙開発戦略推進事務局より説明があり、議論を行った。議論の結果、同基準案を宇宙政策委員会として了承することになった。委員からは以下の様な意見があった。

- 宇宙分野では、常に新しい技術が出てきている。本技術基準は11月に施行されるが、引き続き、柔軟な対応が必要。

以上